

### セルリーの萎縮炭疽病（新発生）

令和4年8月に胆振地方において新葉に細かい褐色のえそ斑点を生じ、奇形や萎縮症状を伴う症状が発生した。症状が激しい株では、外葉や葉柄部にも斑点を生じた。罹病部からは *Colletotrichum* 属菌が高率で分離された。分離菌を用いたセルリー苗への接種試験の結果、原病徴が再現され、接種菌が再分離された。本菌の PDA 平板培地上の培養菌叢は白色～灰白色、SNA 培地上で鮭肉色の分生子粘塊を形成し、分生子は無色、無隔壁、紡錘形～楕円形で一端は丸く、一端は丸いか鋭角、大きさは  $11.4\text{--}20.5 \times 3.5\text{--}6.1\mu\text{m}$  であった。付着器は褐色、楕円形～棍棒形または不整形、全縁で大きさは  $7.4\text{--}15.0 \times 5.1\text{--}8.4\mu\text{m}$  であった。これら形態的特徴および ITS、*tub2* および *GAPDH* の3領域に基づく分子系統解析の結果から、病原菌を *C. nymphaeae* (Passerini) Aa と同定し、セルリー萎縮炭疽病と診断した。

(中央農試)



セルリーの萎縮炭疽病（中央農試 中島 原図）